

## 授業実践紹介① ー 都市プロ科目「心理学」ー

平成21年度  
首都大学東京FDセミナー  
単位制度の実質化シリーズ  
～シラバスを中心に～

都市教養学部 人文社会系 心理学  
准教授 沼崎 誠

## シラバス(授業概要)の位置づけ

- シラバスの位置づけ
  - 授業の内容を明らかにして、学生が自主的に授業選択ができる環境を整えるための一つ的手段
- 方針
  - なるべく多くの情報を学生がアクセスできる環境を整えたい
- 受講者: 2/3の学生が新入生200~300名  
=大学の授業についてイメージがない

## 都市プロ「心理学」の授業

### ◆テーマ: 進化心理学

- 技能修得型                   ×
- 発想修得型/問題啓発型   ○
- 知識習得型                   △

➤A4 1枚の文章のみのシラバス(授業概要)でわかるのか?

➤初回のガイダンス重視

## 情報の提供システム

### 1. ガイダンス(資料1参照)

- a. どのような内容か? ➡
- b. どのような方針の講義か?
- c. どのような教員が講義をするのか?
- d. Webページの紹介

– 講義ノート(内容)のサンプルも

## 情報の提供システム

### 2. Webページ

- a. 沼崎の研究関心
- b. 講義ノートの公開(A4 57枚)
  - 予習すべき内容の明示
- c. 連絡事項+配布物バックナンバー
- d. 試験の案内(資料2参照)
  - 復習すべき内容の明示
- e. 読書案内(資料3参照)
  - 発展学習するための参考資料
- f. レポートの受領者一覧
- g. 研究募集の案内
  - 授業時間外の学習機会の提供
- h. 協力いただいた研究結果の報告

## 要望

### ■ 少なくとも都市プロに関して

- ガイダンスの充実が必要なのでは?
  - 複数の科目のガイダンスを受けられる環境の整備
  - シラバスはガイダンスに行く気にさせる案内
- Webページを大学としてシステム化
  - レポート受領システムなどの整備
  - 画一化の必要はないが

## 首都大学東京「心理学」後期 月 4 限 ガイダンス

担当：沼崎 誠

## 0. 本講義の目的

心理学の基本的な考えを理解した上で、実証的な心理学に対する興味関心を高めることが、本講義の目的です。本講義では、人を適応エージェントと捉える観点から、進化心理学的視点を取り入れて、進化的意味での「適応」という概念を軸に、人の情報処理過程を明らかにしていきます。取り上げるテーマは、①知覚心理学、②思考心理学、③社会心理学といった領域からピックアップします。

また、心理学の研究法を理解するために、調査や実験に参加する機会も設けます。

## 1. 本講義のテキスト

◎テキスト：テキストは使用しませんが、Web 上にアップした講義ノートがテキスト代わりです。

○参考書：講義中に適宜紹介します。

## 2. 本講義の内容

## (1) 進化的意味での「適応」とは

「適応」と「進化」について簡単な概観を述べる。「包括適応度」「性淘汰」「互惠の利他」について解説する。

## (2) 知覚心理学

人の知覚システムについて、適応という観点から解説する。主に視覚を取り上げ、他の種との違いや錯視や奥行き知覚などを取り上げ紹介する。

## (3) 思考心理学

社会的推論において推論・思考過程を規範的推論ルールと実用論的思考を対比させながら、領域限定的な推論過程についても取り上げて解説する。

## (4) 社会心理学

人の複雑な社会行動が進化的観点からどの程度説明できるのかを、援助・攻撃行動、恋愛行動、分配行動などを取り上げて解説する。

講義においては上記の内容を行うが、心理学の理解には実際にどのような方法論によって知識が得られているのかを知ることが必須である。そのためには、実際の実験・調査を体験することが最も有効な手段である。そのため、授業時間内や授業時間外に実験・調査へ参加の機会を設ける。

上記内容は予定であり、一部変更する可能性があることは了解しておいて欲しい。

## 3. 本講義の進め方

講義ノートは、私の Web サイトに pdf ファイルでアップしますので、自分でダウンロードして下さい。以下のサイトに入り、「配布物はここから」をクリックして下さい。必要なファイルをクリックすると「パスワード」を聞かれますので、以下のものを半角で入力して下さい。講義ノートはあらかじめ授業前に目を通しておくようにして下さい。

連絡事項も以下のサイトにアップしておきますので、定期的にながめる習慣を作ってください。

Web サイト：<http://www27.atwiki.jp/numazaki/pages/17.html>

パスワード：shinri09

基本的には板書はほとんどしませんので（講義ノートが板書代わり）、あらかじめご了解をお願いします。

講義の途中から入室することは真面目な学生の邪魔になるのではないようお願いします。また、講義の途中で退席することは基本的に認めません。何か予定があり最後まで出席できない場合は、その日の講義は出ないようお願いします。ただし、気分が悪いなど正当な事由がある場合は、私に断った上で退席して下さい。原則として私の講義ではマイクを使わない予定でいます（人数によります）。お喋りをする方は講義にでないようお願いします。

原則として出席は取りません。ただし、数回調査を行う予定にしています。その時には前回までに連絡を取りますので、情報だけは得ておきましょう。調査に参加することが出席点となります。

また、この講義時間外に心理学の実験の参加者をお願いすることがあります（私や院生の研究）。実際の研究に参加してみてもはじめて、どのような過程で心理学の知識が形成されているか明確になると思います。強制ではありませんが、その際には積極的に参加してくださいようお願いいたします。実験の参加をお願いするときの基礎資料として、あらかじめ全員に個人差尺度に回答することをお願いいたします。来週行いますが、これが、この講義の授業担当者に対する履修登録になります。

## 4. 本講義の評価

学期末の試験（100 点満点）と、調査（1 回 3 点程度）の参加得点と、実験参加+レポート提出得点で、評価を下します。単純にこれらの得点を合計します。時間外に実験に参加した場合には、実験の内容と感想をレポートに書くことにより 20 点程度の得点を加算します。実験の参加を希望しない学生には、参考文献リストを呈示しますので、その中から選択をして読み、レポートを提出して下さい。

## 5. その他

2 週目に、本講義の登録（実験参加登録 etc.）を行なっていただきます。本講義を履修する予定の方は必ず出席をするように下さい。また、今日出席していなくて、本講義を履修するつもりになっていない方にも連絡して下さい。

オフィスアワーを設けています。火曜日 5・6 限（隔週）と月曜日 5 限です。研究室（5 号館 206）の前に予約表がありますので、そちらの方に希望者は記入をしておいて下さい。予約表に書かれた方を優先しますが、その時間帯は基本的に研究室にいますので、予約表に記入がない場合には相談にのります。

## 資料 2

### 火曜日 3 限「心理学」(沼崎担当) 学期末試験問題 & お知らせ

#### ○ 評価

学期末の試験(100点満点)と、調査(1回 3点程度)の参加得点と、実験参加+レポートの得点で、評価を下します。単純にこれらの得点を合計します。ただし、調査の参加得点と実験参加+レポート得点だけでは単位が取れないようにしたいので、この2つの合計得点の上限は30点とします。ちなみに首都大(都立大の学生にもこの評価を採用する)では、59点以下=1(不可)、60-69点=2(可)、70-79点=3(良)、80-89点=4(優)、90点以上=5(優)です。

#### ○ 調査参加得点

調査参加得点として、実験参加登録を調査参加得点として、5点満点としたいと思います。

#### ○ 実験参加得点

実験参加募集は引き続き行います。研究に参加し、レポートを提出することにより、最高25点のレポート得点が与えられます。実験に参加できなかった(しなかった)人には救済処置をとります。救済処置は、来週配布します。

#### ○ 学期末試験

7月21日(火)通常の間・場所で行う予定です。持ち込みは全て不可です。問題はあたる程度、教えておきますので、高得点・単位が欲しい方はあらかじめ解答案を作っておくと良いでしょう。答案用紙はA3両面ですので、この点を考慮して解答案を作っておくと良いでしょう。

論述式4問の形式で出題します。論述式の4問は以下の通りです。

- ①ヒトの視覚システムは、進化してきた環境で生活するのに適応したシステムであると主張されている。この適応システムについて下記の用語を用いて説明しなさい。(25点満点)
- ②ヒトは規則がないところに規則を見つけいる傾向があるとされている。なぜそのような傾向があるかを、下記の用語を用いて説明しなさい。(25点満点)
- ③互惠的利他理論を説明し、理論と関わるヒトの思考や社会的行動について下記の用語を用いて説明しなさい。(25点満点)
- ④性淘汰理論を説明し、理論と関わる人の思考や社会的行動について下記の用語を用いて説明しなさい。(25点満点)

## 資料 3

### 「心理学」実験に不参加者のための処置

「心理学」で実験に参加できなかった学生に対して次のような処置をとります。

実験参加得点の代わりに、以下の文献から1冊(上下巻の場合は2冊)を選び読んでレポートを提出することにより、最高25点の加点を与えます。提出をしなくても減点の対象になることはありません。これはあくまでも希望者のみです。

#### ○レポート提出方法

- ①形式 A4白紙 or レポート用紙を用い、必ず表紙を付け、学修番号・氏名・読んだ本を明記すること。
- ②分量 A4 2枚程度 (2400字前後)
- ③内容 本を読んだ感想。内容の要約は必要ありません
- ④提出方法
  1. numazaki@tmu.ac.jp に添付ファイルで送信すること  
☆ subject(件名)は” \*\*\*\*\*心理学レポート” とすること。 \*\*\*\*\*” には提出者の学修番号の数字のみを半角入れること  
☆提出部数が多くなり紛失の恐れもあり、教員側から要請があれば再提出できるようにしておくこと
  2. 添付ファイルで送信できない学生は以下の方法で提出すること  
☆人文学部棟 2F206 心理学研究室 2 の前に置いてあるボックスに提出すること  
☆提出場所の扉にある用紙に学修番号・氏名を記入しておくこと  
☆提出部数が多くなり紛失の恐れもあるので、必ずコピーを取っておくこと
- ⑤提出期限  
7月31日(金)午後6時

#### 新書・文庫等

安藤寿康 心はどのように遺伝するか 講談社ブルーバックス  
科学シミュレーション研究会 パソコンで見る生物進化 講談社ブルーバックス  
長谷川真理子 ヒトの心はどこから生まれるのかー生物学からみる心の進化 ウェッジ  
下条信輔 〈意識〉とは何だろうか 脳の来歴、知覚の錯誤 講談社新書  
山岸俊男 社会的ジレンマ「環境破壊」から「いじめ」まで PHP 新書  
山岸俊男 安心社会から信頼社会へー日本型システムの行方 中公新書

#### その他

長谷川寿一・長谷川真理子 進化と人間行動 東京大学出版会  
ピンカー 人間の本性を考える(上)(中)(下) NHK ブックス  
ピンカー 心の仕組み(上)(中)(下) NHK ブックス  
ピンカー 言語を生み出す本能(上)(下) 日本放送出版協会  
ピンカー他 言語進化とはなにか 大学教育出版  
エヴァンス 超図説 目からウロコの進化心理学入門 講談社 SOPHIA BOOKS  
ダイヤモンド 人間はどこまでチンパンジーか 新曜社  
ディーコン ヒトはいかにして人となったか 新曜社  
ダマジオ 生存する脳 講談社  
ダマジオ 無意識の脳 意識の脳ー身体と情動と感情の神秘 講談社  
ミズン 心の先史時代 青土社  
アプター オディセウスの鎖 サイエンス社  
松沢哲郎・長谷川寿一 心の進化 岩波書店  
ミラー 恋人選びの心 I II 岩波書店  
バス 女と男のだましあいーヒトの性行動の進化 草思社  
リドレー 赤の女王 翔永選書  
リドレー 徳の起源 翔永選書  
リドレー やらかな遺伝子 紀伊國屋書店  
ドゥ・ヴァール 利己的なサル・他人を思いやるサル 草思社  
ドゥ・ヴァール 政治をするサル 平凡社  
ダンバー ことばの起源 青土社  
バーン 考えるサル 大月書店  
ライト モラル・アニマル(上)(下) 講談社  
デイリー & ウイルソン 人が人を殺すとき 新思索社  
ギグリエリ 男はなぜ暴力をふるうのかー進化から見たレイプ・殺人・戦争 朝日新聞社  
デネット ダーウィンの危険な思想 青土社  
デネット 心はどこにあるのか 草思社  
デネット 解明される意識 青土社  
メイナード・スミス 進化とゲーム理論 産業図書  
佐伯胖・亀田達也 進化ゲームとその展開 共立出版  
ランドルフ・ネシー 病気はなぜ、あるのかー進化医学による新しい理解 新曜社  
オルコック 社会生物学の勝利 新曜社  
トリヴァース 生物の社会進化 産業図書  
ドーキンス 利己的な遺伝子 紀伊國屋書店  
ドーキンス 盲目な時計職人 早川書房  
ドーキンス 延長された表現型 紀伊國屋書店  
ザハヴィ・ザハヴィ 生物進化とハンディキャップ原理 白揚社  
サラ・ブラファター・ハーディー マザー・ネイチャー(上)(下) 早川書房

首都大学東京	心理学	科目種別	人・社 I / E	単位数	2	
東京都立大学		科目種別	教養科目	単位数	2	
担当教員	沼崎 誠		後期	月曜日	4時限	
授業方針・テーマ	心理学の基本的な考え方を理解したうえで、実証的な心理学に対する興味・関心を高めるようにしたい。					
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、人を適応エイジェントと捉える観点から、進化心理学的視点を取り入れて、人の情報処理過程を明らかにしていきたい。取り上げるテーマは、①知覚心理学、②思考心理学、③社会心理学といった領域からピックアップする。また、心理学の研究法を理解するために、調査や実験に参加する機会も設ける。					
授業計画・内容	<p>本講義では、進化心理学的意味での「適応」という概念を軸に、人の情報処理過程を明らかにする。取り上げるテーマは、①知覚心理学、②思考心理学、③社会心理学といった領域からピックアップする。</p> <p>授業計画は次の通りである</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 進化的意味での「適応」とは 「適応」と「進化」について簡単な概観を述べる。「包括適応度」「性淘汰」「互恵的利他」について解説する。</li> <li>2 知覚心理学 人の知覚システムについて、適応という観点から解説する。主に視覚を取り上げ、他の種との違いや錯視や奥行き知覚などを取り上げ紹介する。</li> <li>3 思考心理学 社会的推論において推論・思考過程を規範的推論ルールと実用論的思考を対比させながら、領域限定的な推論過程についても取り上げて解説する。</li> <li>4 社会心理学 人の複雑な社会行動が進化的観点からどの程度説明できるのかを、援助・攻撃行動、恋愛行動、分配行動などを取り上げて解説する。</li> </ol>					
テキスト・参考書等	書籍は特に用いないが、授業で用いるプリントを担当者のWebページにアップしておくので、それが講義テキストとなる。					
成績評価方法	成績は学期末に行う試験(約90%)と出席得点(約10%)で評価する。ただし、実験参加レポートまたは代替課題レポートを提出した学生には、その得点を加算して評価する。					
特記事項	<p>1回目の講義で、講義内容や履修上の注意について説明するので、1回目は必ず出席すること。心理学の知見がどのような方法論によって得られるかの理解の促進には、実際の実験や調査に参加することが必要である。そのため、実験や調査に積極的に参加するようにお願いしたい。</p> <p>前期火曜3限「心理学」と同一内容である。</p> <p>この科目は、人文・社会系心理学分野の推奨科目である</p>					

本科目は、首都大学東京の2008年度以前の入学者については、都市教養プログラム科目ではなく、共通基礎教養科目中の「その他の教養科目」である。